

## 2019年度入試直前動向②～国公立大入試のトピックス～

河合塾

2018/12/14

前号に続き来春（2019年度）入試の展望をお伝える。今号では、国立大入試のトピックスについて取り上げる。

### ■学部・学科の新設・改組は落ち着く

近年、国公立大で学部・学科の新設・改組が相次いだ。来春はこうした動きに落ち着きがみられる。以下で第3回マーク模試の志望動向を踏まえつつ紹介する。

#### ① 学部の新設・改組

【図表1】は国公立大で来春新設・改組が行われる大学をまとめたものである。全部で6大学と、ここ数年と比べて数は少ない。

室蘭工業大は工学部を改組し、理工学部を設置する。推薦入試拡大のため、一般入試の募集人員が大きく減少する影響から、模試での前期日程の志望者は減少している。

東京外国語大は国際日本学部を新設する。入学定員のうち30名は留学生対象の入試となっており、既存の言語文化、国際社会学部よりも国際色が強い。また、2次試験の英語でスピーキング試験が課されるのも大きな特徴だ。受験生の認知度は高く、今回の模試でも志望者が集まっている。

横浜市立大は国際総合科学部の4学系（国際教養、国際都市、経営科学、理）を再編し、国際教養、国際商、理の3学部体制となる。国際商学部では、前年の経営科学系と比較して1割以上志望者が増加している。

兵庫県立大は経済学部と経営学部を再編し、国際商経学部と社会情報科学部を設置する。国際商経学部では、募集人員は前年の経済学部と経営学部を合わせた数と比較すると大きく減少するが、志望者は前年並みに近い数を集まっている。なお、募集は経済学コース・経営学コース、グローバルビジネスコースの2コースに分かれるが、現時点では募集人員の多い経済学コース・経営学コースに志望者が集まっている。グローバルビジネスコースでは、出願にあたって英語外部試験でCEFRレベルB1以上の成績提出が求められることもあり、志望者はさほど集まってはいない。

【図表1】国公立大 学部の新設・改組

大学	学部	入学定員
室蘭工業	理工（昼間）	560
	理工（夜間主）	40
福島	農	100
東京外国語	国際日本	75
横浜市立	国際教養	270
	国際商	260
	理	120
富山県立	看護	120
兵庫県立	国際商経	360
	社会情報科学	100

※河合塾調べ

#### ② 学科の再編—国立大の理工系学部で活発

学部の新設・改組の動きは落ち着いているものの、学科再編の動きは国立大の理工系学部で活発にみられる。【図表2】は、国立大の2019年度学科再編例である。理工系の学部を中心に、複数学科を少数学科に再編する大学が目立つ。1学科制やコース制などを導入することで、柔軟な教員配置や定員管理をしやすいといったメリットがあるため、こうした動きが広まっている。

佐賀大では理工学部を7学科から1学科体制に再編する【図表3】。理工学科1学科のなかに12コースが設置され、2年次よりコース別での専門教育が実施される。なお、前期日程では募集人員が大幅に減少することもあり、志望者は減少している。

【図表2】国立大 学科の再編例

大学	学部	学科
宇都宮	工	4学科を基盤工学科1学科に再編
東京農工	工	8学科を6学科に再編
三重	工	6学科を総合工学科1学科に再編
愛媛	理	5学科を理学科1学科に再編
	工	6学科を工学科1学科に再編
佐賀	理工	7学科を理工学科1学科に再編
	農	3学科を生物資源科学科1学科に再編

※河合塾調べ

【図表3】佐賀大 理工学部の再編

理工学部 (490)		理工学部 (480)	
数理科学科 (30)	理工学科	数理サイエンスコース	電子デバイス工学コース
物理科学科 (40)		知能情報システム工学コース	電気エネルギー工学コース
知能情報システム学科 (60)		情報ネットワーク工学コース	メカニカルデザインコース
機能物質化学科 (90)		生命化学コース	機械エネルギー工学コース
機械システム工学科 (90)		応用化学コース	都市基盤工学コース
電気電子工学科 (90)		物理学コース	建築環境デザインコース
都市工学科 (90)			

※河合塾調べ、( )内は入学定員

■入試の変化と志望動向

① 国立難関 10 大学の状況

【図表4】は旧帝大を中心とした国立難関 10 大学の前期日程の志望動向をグラフにしたものである。

北海道大、東京工業大、一橋大では志望者の増加が目立つ。とくに一橋大では全学部で志望者が増加しており、大学全体の志望者前年比は 117%と高い増加率を示している。なかでも 2018 年度入試で志願者が大きく減少した法学部では、志望者は前年から 3 割増加している。一方、東北大、京都大などでは志望者が減少している。東北大では 2018 年度入試で志願者が増加した学部も多く、その反動もあるだろう。

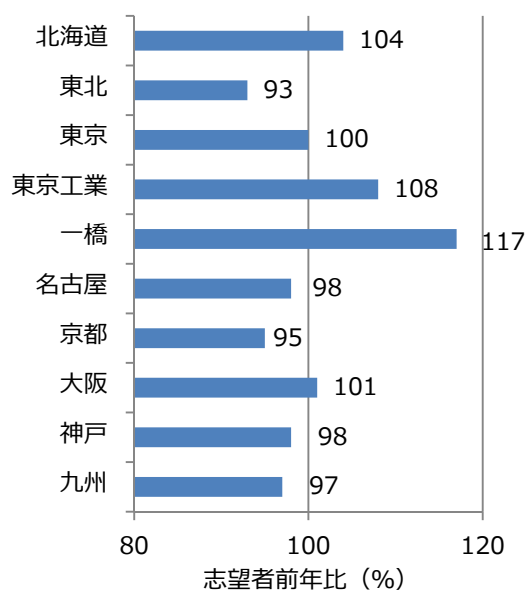
このほか、九州大では志望者は前年比 97%とやや減少しているが、医学部医学科では志望者が 4 割以上増加している。これは、2019 年度入試よりセンター理科の指定科目が変更となり、生物が必須から物理・化学との選択になる影響である。ただし、2018 年度入試において同様の科目変更を行った熊本大（医 - 医）は、模試時点の人氣に反し、実際の入試では志願者が大幅に減少し、易化した。九州大についてもこのまま推移するとは限らない。出願時には、河合塾のセンター試験自己採点集計「センター・リサーチ」の状況を参考に、慎重に検討してほしい。

② 東京工業大 募集単位を「類」から「学院」へ変更

東京工業大では 2019 年度入試より募集の単位を「類」から「学院」へ変更する【図表5】。

今年の志望者数をみると、情報理工学院では募集人員の 5 倍以上の志望者が集まっており、他の学院と比べて人氣が高い。前号の系統人氣の状況でもお伝えした通り情報系学部の人氣の高まりが目立つなか、東京工業大でも同様の傾向がみられる。一方で、生命理工学院では他の学院と比べて志望者が集まっておらず、人氣の差が鮮明に表れている。

【図表4】国立難関 10 大学 志望動向



※第3回全統マーク模試より、前期日程で集計

【図表5】東京工業大 志望動向

<昨年>			<今年>		
類 [主な所属 可能系統]	募集 人員	志望 者数	学院	募集 人員	志望 者数
第1類 [理]	175	312	理学院	143	354
第2類 [材料]	73	126	物質理工 学院	160	239
第3類 [応用化]	96	175			
第4類 [機械]	183	552	工学院	314	835
第5類 [電気電子・ 情報通信]	177	545	情報理工 学院	86	475
第6類 [建築・土木]	87	258	環境・社会 理工学院	92	244
第7類 [生命理工]	95	120	生命理工 学院	105	100
全学合計	886	2,088	全学合計	900	2,247

※第3回全統マーク模試より、前期日程で集計